

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

# 有明海再生県民の総意

## 諫早早期開門 県民大会でアピール

県民大会には約1000人が  
詰め掛け会場を埋め尽くした

【西日本・7月23日】諫早湾干拓事業(長崎県)早期開門調査の実現に向けた「宝の海・有明海の再生を願う佐賀県民大会」があった22日、会場となった佐賀市内のホテルには漁業者だけでなく、市民団体や学生など約千人が参集。県民の総意としての有明海再生をアピールした。大会では「有明海からの報告」と題して、9個人・団体が登壇。太良町の漁船漁業、赤木勝蔵さんは「排水門の締め切りで有明海の生態系が全面的に変わった。昨シーズンはタイラギが採れたが、次も採れるという安定はない」と現場の実態を報告。また、漁業者以外の代表として、鹿島ガタリンピックを主催しているフォーラム鹿島の藤松義将さんが「干潟には癒やしの効果がある。10-20年後もこの干潟でガタリンピックをしたい」と語ると、同海沿岸でゴミ拾いを続ける鹿島実業高校の生徒らも登場し、再生に向

けた活動や思いを報告した。【佐賀・7月22日】鹿島市の七浦小6年生4人の「早く元のようになりなさい宝の海に戻ってほしい」というメッセージ発表で幕開け。ノリ養殖とタイラギ漁の漁業者が干拓堤防閉め切り後、潮流の変化や赤潮頻発などで「危機的状況」になったとして、一刻も早い開門調査を求めた。白石町福富の干拓地営農者は用水確保などの課題克服の経験を語り、農業と漁業の共存を訴えた。最後に「開門調査が適当」とした政府与党検討委員会メンバーの川崎稔参院議員が「農相交代もあつて最終的な結論にまだ至っていないが、この大きな流れを必ずや一刻も早く実現する」と表明。留守茂幸県議会議長らが「(長崎県の)干拓地や背後地の住民に対し具体的な処置を国が示すことで犠牲を払しょくし、4県等しく宝の海再生が実現できる」と力を込めた。大会後、古川知事は「国としては開門すると既に判断出されている。それを実行するのがいつかというだけだ」という認識を示し、留守議長らと26日にも農水省や民主党を訪れ、県民の思いを伝える考えを示した。

## 諫早開門調査求め 研究者ら現状報告 諫早市3500人参加

【西日本・7月25日】諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水門の開門調査を求める市民団体が24日、諫早市内で講演会「県のデマ宣伝を斬る！」を開いた。約350人が参加し、大

学教授や漁民らが現状を報告した。堤裕昭・熊本県立大教授は「ノリの酸処理と赤潮は無関係」として、1997年の堤防閉め切り後に雨量に対する赤潮の規模が増大したと指摘。高橋徹・熊本保健科学大教授は「開門されたら調整池の水が農業に使えないというが、使用量はわずかだ」と述べ、アオコがつくる毒素の危険性に言及した。

## 開門調査の実施決定を要望 諫早湾干拓で佐賀県知事

【MSNN産経・7月26日】国営諫早湾干拓事業(長崎県)の潮受け堤防の開門調査問題で、佐賀県の古川康知事は26日、篠原孝農林水産副大臣と省内で会談し、ただちに開門調査の実施を決定するよう求める要望書を提出した。要望書は有明海の現状について

「依然として赤潮が多発し、二枚貝類は激減したまま。ノリの色落ちが発生するなど、一日も早い再生が強く望まれる」と指摘。政府、与党の検討委員会が4月に出した「開門調査が適当」との結論に基づき、調査実施を決定するよう求めている。また、農業への影響や防災面の懸念から開門に反対している長崎県にも配慮し、調査実施に向けて万全の対策を講じるよう要望している。

## 市民の思い軽視／長崎

【毎日・7月22日】島じま・差別諫早市は、国営諫早湾干拓事業(諫早)の開門調査を求める市民団体「諫早市民の会」が集めた約1万人の署名について、受け取るだけに約1カ月も費やした。会のメンバーは「極めて失礼な行為」と憤っている。一方、開門反対の署名活動には市役所として協力し、約2週間で署名・集約まで終えた。勤務時間中に署名活動した職員もいたとされる。今回は署名活動ではなく、単なる「受け取り」だ。市民の会は6月3日に日程調査を依頼したが、市は議会や選挙を理由に1カ月も先送りしてしまつた。

開門の賛否とは別に、市民への対応は平等が原則のはず。街頭で長時間にわたって取り組んだ市民の思いを軽視してはならない。市が掲げる「生活密着宣言」とは懸け離れた対応だった。